

モバイル放送サービスの幕あけ

Beginning of Mobile Broadcasting Service

2004年10月からモバイル放送サービスが開始されました。モバイル放送は2.6GHzの周波数帯を利用し、東経144°上の静止軌道にある大型放送衛星と地上に設置されたギャップファイラーにより、車載や個人携帯の受信端末で多くの音声と映像番組を楽しむことができます。

この放送システムは、東芝の技術提案を基に、多くの関係機関や企業に参加いただいて総務省と(社)電波産業会(ARIB)の場で技術検討を行い、1999年7月に、わが国で初めて民間ベースで標準化されました。また、2000年7月には、国際電気通信連合(ITU)において国際標準システムとしても承認されています。

このシステムは、電波に関連した部分以外は、わが国の地上及び衛星デジタル放送の音声や映像の仕組みに準拠しています。それに、日本の広い地域で個人携帯や車載の受信端末によりデジタル放送番組を楽しむことができる、当社提案の伝送技術を加えました。

このシステムを用いた放送サービスは、当社が筆頭株主となり多くの関連企業に出資いただいたモバイル放送(株)が提供し、サービス開始時には30チャンネルの音楽・音声放送、7チャンネルの映像放送、約60タイトルのデータ放送が行われています。音楽チャンネルでは米国西海岸のFM放送や多くのジャンル別音楽を、また、映像チャンネルでは野球や中央競馬などのスポーツ中継とニュースやエンターテインメント番組を楽しむことができ、今までのラジオやテレビとは違ったスタイルで視聴できるようになっています。

なお、モバイル放送用衛星は韓国の携帯電話キャリアSK Telecom社と共同で保有しており、韓国でもTU Media社がモバイル放送(株)と同様のサービスを開始します。

この特集では、モバイル放送を実現する技術要素として、衛星とギャップファイラーを含むシステム設計、受信端末設計、LSI設計などについて紹介します。モバイル放送が皆さまの身近で新しい役割を果たすことができればと願っております。



中川 剛
NAKAGAWA Takeshi